

博多とアジアの映画 120

松 浦 仁

「靈幻道士」(1985)が1986(昭和61)年4月26日から6月27日まで福岡東宝で上映された後、引き続き東映パラスで6月28日から7月11日まで上映された。「バタリアン」との2本立てだった。「バタリアン」は1985年に製作されたアメリカのホラー映画だった。

「バタリアン」のストーリー。『医療会社で働くフレディは軍の失態によって会社の倉庫にゾンビが保管されていることを知られる。ゾンビが密封されたドラム缶を興味本位に叩くと突然緑色のガスが噴き出した。ガスは死体を蘇らせてゾンビ化させるという化学兵器だったため、倉庫に保管されていた解剖実習用の死体がゾンビとなる。』

「バタリアン」は、すでに2月にシネマ1で「コマンド」との2本立てで公開されていた。「コマンド」は1985年にアメリカで製作、誘拐された愛娘を救うため悪に立ち向かう元特殊部隊員の戦いを描いたアーノルド・シュワルツェネッガー主演のアクション映画だった。前年製作の「ターミネーター」(1984)で悪役を演じたアーノルド・シュワルツェネッガーが屈強な正義の味方のヒーローを演じてアクションスターとしての地位を確立した作品だった。

「靈幻道士」は福岡東宝と東映パラスで上映された後、センターシネマでも9月30日から10月7日まで上映された。1986(昭和61)年8月、「サンダーアーム 龍兄虎弟」(1985、原題「The Armour of God」)が日本(福岡)で公開された。前年に製作された「プロテクター」「ポリス・ストーリー」香港国際警察「ファースト・ミッション」「七福星」に続く5作目のジャッキー・チェン主演作だった。(ただし「七福星」は日本公開では主演扱いだったが、実際は準主役だった。)

「サンダーアーム 龍兄虎弟」のストーリー。『数千年前、聖地エルサレムの宗教戦争で世界中に散逸した6種の神の秘宝を揃えれば世界を支配できると信じている邪教集団の教祖は、冒険家で宝捜しのプロである「アジアの鷹」とジャッキー(ジャッキー・チェン)を利用しようと企む。教祖はジャッキーをかつぎ出すため、ジャッキーの友人で香港のスーパースター、アランの妻ローレライを誘拐する。かつて、三人は同じバンドのメンバーとして活躍していたのだが、三角関係の縛りでジャッキーは身を引きバンドを去ったのだった。その後、ジャッキーは「アジアの鷹」と呼ばれる冒険家になった。ローレライはアランと結婚したのだが、ジ

ヤッキーはまだローレライに未練があった。邪教集団の教祖は神の秘宝を手に入れるため、ローレライを誘拐してジャッキーに秘宝を探させようとする。アランは神の秘宝と妻の命が引き換えられると知り、ジャッキーの力を借りるためにジャッキーのいるロンドンへと向かう。その頃、ジャッキーは秘宝のひとつである宝剣を手に入れ、骨董収集家で伯爵の娘メイに売ったばかりだった。アランから話を聞いたジャッキーは宝剣を買い戻し、伯爵が持っている残りの三種の武器を邪教集団の持つ秘宝を盗んでくるという条件つきで借り受ける。こうしてジャッキー、アラン、メイはローレライを救出するための旅が始まった。』

「サンダーアーム 龍兄虎弟」はハリソン・フォード演じる考古学者インディアナ・ジョーンズ博士のアクション・ロマンス・宝探し・オカルト・ギャグ満載の冒険活劇インディ・ジョーンズ・シリーズの1作目「レイダース/失われたアーク《聖櫃》」(1981)、2作目「インディ・ジョーンズ 冒険 聖墓の魔物」(1984)に触発されて製作した、「インディ・ジョーンズ」の香港版といった趣があった。「サンダーアーム 龍兄虎弟」は秘宝をもとめて、どんな危険な場所へもおもむくトレジャ

ー・ハンター、インディアナ・ジョーンズ博士をモデルにしたジャッキー・チェンの真骨頂であるシリラスとコミカルな要素が盛り込まれたハラハラドキドキのアクション・アドベンチャー映画だった。香港興行成績年間1位を獲得して大ヒットした。

「サンダーアーム 龍兄虎弟」は、1985(昭和60)年8月から(旧)ユーゴスラビアで撮影したのだが、9月にはいると主演のジャッキー・チェンは「ファースト・ミッション」のプロモーションのため撮影を一時中断して日本にむかった。9月2日に日本に到着し2日間滞在したのち、飛行機を乗り継いで9月6日にユーゴスラビアに戻って撮影を再開した。

そして翌日の9月7日、ジャッキー・チェンは木から木へ飛び移る冒頭のシーンの撮影中に捕まった木が折れて15メートルの高さから落下した。頭が肋骨骨折、脳出血、眉骨損傷で失明寸前、鼻骨折、頬骨脱きゆうという瀕死の重傷を負った。日本ではジャッキー・チェン死亡説がささやかれ、ジャッキーファンはもとより多くの日本国民にとってショックな出来事だった。

「サンダーアーム 龍兄虎弟」の撮影は、3分の2ほどを残して中断してしまった。事故から1カ月後、ジャッキー

ー・チェンは奇跡的に回復し、後遺症で左耳が聞こえづらくなってしまったが退院して香港に戻った。翌1986(昭和61)年3月、ジャッキー・チェンはユーゴスラビアに戻り、撮影に復帰して製作が再開された。しかし、「サンダーアーム 龍兄虎弟」は、サミュエル・ホイ主演の「悪漢探偵」(1981)などの監督だったエリック・ツァンが監督を務めていたのだがスケジュールの都合で降板してしまった。ジャッキー・チェンは「サンダーアーム 龍兄虎弟」の監督を引き継ぐことになった。

また、当初は出演予定であったメイ役のシンシア・ロスロックが「上海エクスプレス」の出演とかぶったためローラ・ファオールに交代するなど撮影遅延による影響や1986(昭和61)年4月に起こったチェルノブイリ(チオルノービリ)原子力発電所事故による放射能汚染で雨天の場合は撮影中止などの制約が課せられたものの、ユーゴスラビアからヨーロッパ各地で撮影して「サンダーアーム 龍兄虎弟」は6月に完成にこぎつけた。

「サンダーアーム 龍兄虎弟」は日本に輸入・配給した東宝東和がつけた日



本版のタイトルだったのだが、どうして「サンダーアーム」だったのだろう。原題も英題も「サンダーアーム」では

ない。「サンダーアーム」とは直訳すれば「雷の腕」という意味になる。おそらくジャッキー・チェンが演じている

冒険家ジャッキー(アジアの鷹)のことを指しているのだろうが、劇中に「サンダーアーム」はどこにもでてこない。スケールの大きいハリウッドのアクション映画を彷彿させるタイトルで、とてもスマートなタイトルではあるが。

劇中でジャッキーが運転する三菱の未来車(コルト・スパイダー)のボンネットの下に飛び出す、50ccエンジンを搭載し足元のペダルで方向をハンドルのスピードを調整する小型車が「サンダー・カー」だった。「サンダー」といえばすぐに思いつくのは60年代にイギリスで製作された人形劇による特撮テレビ番組「サンダーバード」。日本でも1966(昭和41)年にNHKが初放送し、その後民放で何度も放送された。70年代には「ローリング・サンダー」(1977、アメリカ)、80年代には「ブルーサンダー」(1983、アメリカ)、「サンダー」(1983、イタリア、日本未公開)などタイトルに「サンダー」がついた映画も何本か製作されている。いずれもアクション映画だった。では「サンダー」に続く「アーム」は何を意味しているのだろう。次号へ続く

Ⅱ 図版は「サンダーアーム 龍兄虎弟」Ⅱ